

1月4日のウクライナ情報

安齋育郎

●米で 100 年ぶり議長選再投票 下院、多数派奪還共和党で造反(2023年1月4日)

【ワシントン共同】米国で新議会が 3 日発足した。昨年 11 月の中間選挙で野党共和党が多数派を奪還した下院(定数 435)で議長選が行われ、共和党の保守強硬派の造反で同党トップのマッカーシー議員が過半数の獲得に失敗。100 年ぶりに再投票に持ち込まれた。

下院議席は共和 222、民主 212、病死による欠員 1。議長選の 1 回目投票では民主党トップのジェフリーズ議員が 212 票、マッカーシー氏が 203 票で、その他の議員に入れた共和党の造反票は 19 票に上った。2 回目の投票でも結果は変わらなかった。マッカーシー陣営は過半数獲得まで投票を繰り返し保守強硬派に圧力をかける構え。



●ルハンスクでの攻防(2022年12月31日)

LNR パセチニク代表代行は、ロシア軍はウクライナ軍によるすべての攻撃をうまく撃退し続けていると述べた。

また「敵は防衛線を突破し、守備隊を襲撃する試みを放棄していない」と指摘した。



●新年直前のモスクワ(2022年12月31日)

新年をあと数時間で迎えるモスクワ。4000 個の光のオブジェが街を彩る。



●ドネツク分遣隊の戦い(2022年12月31日)

ドネツク人民共和国の分遣隊。

兵士たちは赤い帽子を被って陣地を移動・攻撃。

<https://twitter.com/i/status/1609184912430755840>



●フランスの電気代(2022年12月31日)

フランスの醸造家・Ulrich Alejo 氏

「今日、私の電気代は売上高の40%を占めています」



●ロシアのガスに対する支払い(2022年12月31日)

ロシアの天然ガス供給会社は、非友好的な国のガス買い手からガス供給に対する債務を回収するか、自ら債務を返済すれば、外貨で支払いを行うことができる。この趣旨の法令がプーチン大統領によって署名された。

同時に、「外国の買い手がこの法令に従わない場合、天然ガスの供給契約に基づく外国の買い手の

債務の返済は、ロシアの供給者による天然ガスの供給を再開する根拠とはならない」と文書に記されている。



●セルビア共和国のブチッチ大統領の言(2022年12月31日)

ブチッチ大統領は、2022年12月30日の TV インタビューで、ベオグラード(セルビア共和国の首都)が自国の利益が脅かされない限り、モスクワに対して制限を課さないことに言及した。

「私達は困難な年を迎え、ありとあらゆる偽善を目にしたが、対ロシア制裁に関する私達の立場がいかに原則的で正確なものであったかを知ることができた。

その立場をどこまで守れるか。いずれにせよ、その立場を簡単に放棄することはないだろう」と語った。

「ヨーロッパには、ガリア人、アステリックスとオベリックスの小さな部族が、諦めずに自分達の自由を精一杯大切にしている国が一つある。ロシアに制裁を加えるかどうかは判らないが、私の「判らない」は、他の人の「Yes」より重みがある。制裁について私は何も約束しないが、私の非約束も多くの人の約束よりはるかに多くの意味を持つ」と述べた。



※安齋注:アレクサンダル・ヴチッチ(52歳)は、2017年からセルビア共和国第3代大統領。2008年にウルトラナショナリズムを掲げるセルビア急進党を離党し、セルビア進歩党の結党メンバーの1人となった。身長200cmで、各国首脳の中で最も背高のつぽ。

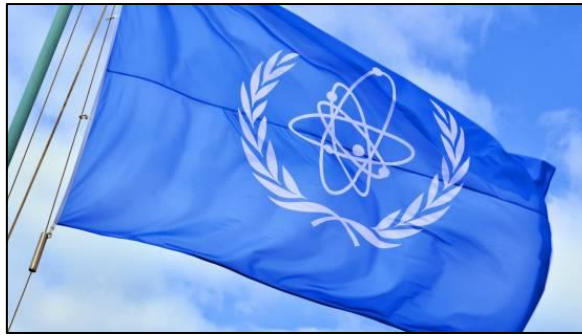
●ザポロージャ原発へのウクライナの砲撃(2022年12月31日)

ザポロージャ原発の330kVのバックアップ電源が砲撃の被害により切断され、最後の750kVの外部電源からオフサイトの電力を受け取っている。

他のウの原発3基は、昨日のミサイル攻撃後、以前の発電量に回復している。

原発の予備電源送電線の損傷は重大ではなく、第2送電線が稼動し発電所の運転に影響は無し。

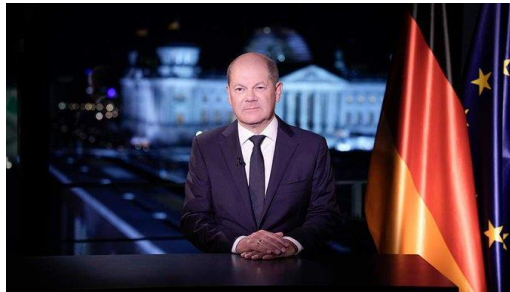
とロスエネルゴアトムのレナト・カーチャが報告。



●ショルツ首相の新年スピーチ(2023年1月1日)

ショルツ・ドイツ首相は、新年のスピーチでウクライナへの支援継続を確約した。

ショルツによると、ウクライナ人が戦っているのはドイツの援助のおかげだという。さらに、ドイツ国民が直面しているウクライナでの出来事の結果にもかかわらず、EU と NATO は団結していると付け加えた。



●イタリアの政治アナリストの見解(2022年12月31日)

イタリアの政治アナリスト・ティベリオ・グラツィアーニ氏はミュンヘン安全保障会議が、ロシアと西側諸国との関係における帰結点であった、と指摘した。(注:ミュンヘン安全保障会議(MSC)は、1963年から毎年2月にドイツ連邦共和国・ミュンヘンで開催される世界最大規模の安全保障の国際会議)

「2000年代初頭は多くのアナリストが一極集中の時代と呼ぶもので、民主主義の輸出と市場のグローバル化を通じ、米国が地球全体の覇権を求めた時代である」

氏は、ミュンヘン会議の後、ワシントン、ブリュッセル、ロンドンが、西側とロシアの協力を無視し、妨げるようになったと指摘した。米国は、EU 諸国に対して、地政学的、政治軍事的に圧力をかけているのだという。

前日、ロシアのプシュコフ上院議員は、西側諸国が NATO の東方拡大路線に乗り出した 1994 年から 1995 年にかけて、ロシアとの関係を破壊し始めたと言った。

※注:MSC は湾岸戦争が勃発した 1991 年と 1997 年の二度中止されている。90年代は冷戦終結、湾岸戦争などを起点に不安定な時代に突入した時期で、NATO(北大西洋条約機構)vs.WTO(ワルシャワ条約機構)の時代が終わって別の形での対決構造をアメリカが求めていた時期だった。軍事大国は相手を必要とするので、NATO だけ残って WTO が消滅したのでは予算も確保できないのだ。だからアメリカは、相手がいなくなっても相手を作る必要があり、NATO の東方拡大でロシアを刺激し続け、ついにまんまとウクライナ戦争に至ったのだが、これがうまく行ったら、次は対話を犠牲にして中国を戦争に引きずり込む可能性は、全くの絵空事ではないだろう。

●ゼレンスキーの焦り(2023年1月1日)

ウクライナのゼレンスキー大統領は、報道機関に対する政府の規制の権限を大幅に拡大する法案に署名した。ジャーナリストは報道の自由を侵すと警告している。



●ウクライナの驚くべき新年の祝い方(2023年1月1日)

ウクライナの新年の祝い方: **ハイル・ゼレンスキー**



●M777 榴弾砲、GRAD、HIMARS システム、320 人の兵士—ウクライナが24時間に失ったもの(2022年12月31日)

過去 24 時間で、320人以上のウクライナ兵が戦闘で死亡した。ロシア軍は、ドネツクの軸で攻撃を続けながら、ザポリージャ地域の村を解放した。アメリカとチェコの生産を含むいくつかの自走砲と、HIMARS システムが破壊された。

ロシア軍はザポリージャ地域のドロジニャンカの村を解放し、ドネツクの軸をさらに前進させたと、ロシア国防省は 12 月 31 日の軍事作戦の毎日の報告で報告した。

ドネツク人民共和国 (DPR) のクラスニー リマンとチェルヴォヤ ディブロワの近くで、外国人傭兵のための3つの臨時駐屯地が撤去された。

この軸では、140 人のウクライナ兵が、ルガンスク人民共和国 (LPR) のセレブリャンカの近くで殺害された。

キーウ軍はまた、ドネツクの方向でさらに80名、ドネツクの南の軸で約50名、クピャンスクの方向でさらに50名を失った。

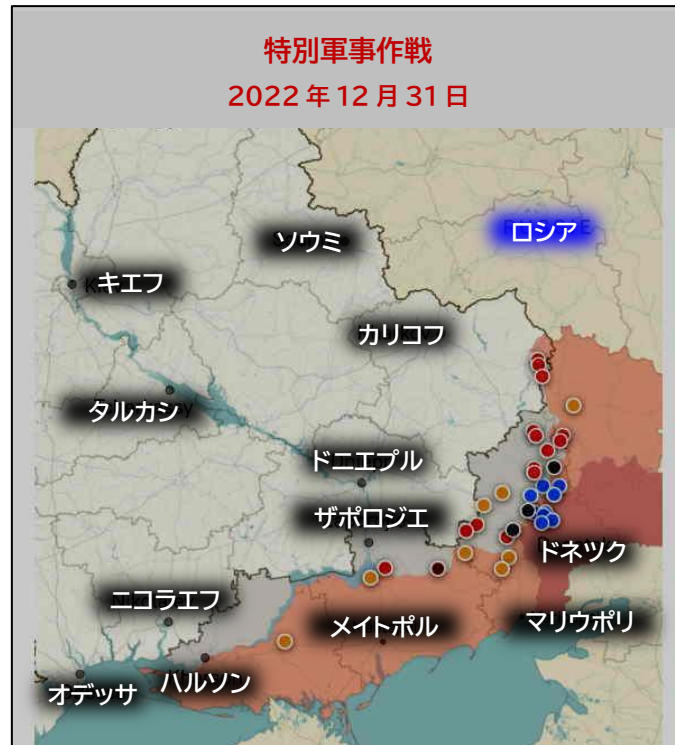
最後に、92の地域で75の砲台と軍人および装備が砲撃されました。

S-300 対空システムからのレーダーも、5つの米国生産の AN/TPQ-50 カウンターバッテリーレーダーと共に DPR で破壊された。2 機の Mi-8 ヘリと 8 機のウクライナ無人偵察機が撃墜された。

対砲兵戦では、米国製の HIMARS 多連装ロケットシステムが DPR のコンスタンティノフカ近くを標的とし、他の 2 つの LRM Grad と共に標的にされた。

また、ドネツクやこの地域の他の町を砲撃するために使用された 2C1 グヴォズディカ自走砲、アメリカ製 M777 榴弾砲 4 丁、チェコ製ダナ自走砲も含まれている。

ザポリージャ地域と DPR では、空爆中に 2 つの大砲と弾薬庫が破壊された。ウクライナでの特別軍事作戦の開始以来、ロシア軍は以下の実績をあげている。



●ドネツクの住民のウクライナによる都市への砲撃の増加についてコメント(2022年12月31日)

「ファシスト」、「親衛隊員」、「ナチス」— ドネツクの住民は、ウクライナの頻繁な都市の砲撃を説明する際にパンチを使わない。住宅、学校、市場、病院は日常的に砲撃の標的となっています。

ウクライナが民間人を標的にする必要性を感じている理由を疑問に思う人もいれば、「ウクライナはドンバスを失うことをよく知っている」と答える人もいます。都市の多くの住民は、ドネツクへの砲撃は、必然的に失われる前に都市を破壊するための必死の試みとして行われていると信じています。



●戦場に夫を送る妻の気持ち(2023年1月1日)

「戦争が終わったら」。戦地に赴いたウラル「◎」の妻たちの気持ちを歌で表現した音楽家 S.V.O.Y

のミュージックビデオを公開。



●カスピ海から発射されたミサイル(2023年1月1日)

確認された目標に対して、軍艦や航空機から数十発のミサイルが発射された。打ち上げのいくつかはカスピ海から発射されたようだ。ウクライナに向けて飛んでいくミサイルの航跡多数。

そして、さまざまな情報筋が報じているように、そのほとんどが目標を達成した。

少なくとも 12 回の爆発がキエフを震撼させた。

公開された映像では、キエフ政権の外国人軍事顧問が駐留していたとされる多層階のホテルの建物を直撃していることがわかる。

そして、対空ミサイルの残骸はロシアのカリブや X-101 の部品と見せかけようとしたそうだが、マークを見れば、これがウクライナの防空に失敗したものであることは疑いようがない。

<https://twitter.com/i/status/1609359764676546560>



●戦場の新年(2023年1月1日)

新年は最前線でも迎えられる。

控えめに、しかし確実に親族や友人からのプレゼントで。多くの兵士に挨拶のハガキが届く。見ず知らずの人が兵士に手紙を書くこともある。解放された都市にサンタが自らプレゼントを届ける。

<https://twitter.com/i/status/1609361031821938688>



●黒海から発射されるロシアの巡航ミサイル(2023年1月1日)

ロシア国防省は、黒海からの巡航ミサイル発射の映像を公開した。

<https://twitter.com/i/status/1609362302465347584>



●【ウクライナ】ウクライナ最終局面 ネオコンの嘘に欧州はまだ従うのか(及川幸久、2022年12月1日) ※日本語字幕あり

<https://youtu.be/jxi0-e9RPL4>



●吠え、嘲笑うタッカー・カールソン(再送、2022年12月)

<https://youtu.be/xbE8qxkuT1U>

完全日本語字幕付き

メディアと米国議会とゼレンスキー ~ ゼレンスキーの要求はなぜ認められるのか？



●民間軍事会社「モーツァルト」(

PMC「ワグナー」(ワグネル、ロシアの民間軍事会社=private military company)に対抗して米国が作った PMC「モーツァルト」は、戦場では注目されなかったが、ウクライナ軍が損失を被ったところには必ず登場し、ウクライナの違法臓器売買に関与している可能性を示している。

<https://twitter.com/i/status/1609083496991014912>

